



# フィリピン国産業環境マネジメント 調査の経験

(株)エックス都市研究所環境コンサルティング部  
国際環境政策チーム マネージャー

Kaoru Oka  
岡 かおる

## 1. フィリピン国産業環境マネジメント調査の概要

弊社では、2002年2月から2003年9月までJICAの鉱工業開発調査「フィリピン国産業環境マネジメント調査<sup>1</sup>」を実施した。本調査は、フィリピンの企業及び投資家による産業環境マネジメントの促進を図るための具体的な活動を展開するための「アクションプラン」の策定、パイロットプロジェクトの実施をとおしてBOI(貿易工業省投資委員会)及び関連する公民の産業環境マネジメント機関の能力を強化することを目的とした。本調査の中では、産業環境マネジメントの現状と課題を把握するため、フィリピンの企業、産業団体、NGOへのインタビュー調査を行い、その結果に基づき、フィリピンにおける産業環境マネジメントの発展戦略を描き、アクションプランの作成を行った。企業の経営者(100社)や過去の廃棄物(排ガス・排水を含む)最小化プロジェクトへの参加企業へのヒアリング調査を踏まえて整理した産業環境マネジメントの発展戦略は、アジアの他国における産業環境管理(環境対策実施)を促進する上で示唆に富むことから、本稿で紹介することとした。

## 2. フィリピンにおける産業環境マネジメントの発展戦略

企業へのヒアリング調査では、①企業経営者は生産性向上や品質改善、市場開発戦略及びネットワークを経営上の課題として認識しているが、環境マネジメントの推進はほとんど関心課題になっていないこと、②競争力があり経営が安定している企業は環境管理についても意欲的に取り組んでいるが、競争力がなく経営が安定していない企業は環境管理に取り組んでいないこと、が明らかになった。前者の企業には、生産管理・品質管理→生産コスト削減→生産管理への投資→生産コスト削減→環境関連コスト削減投資→コスト削減のようなプラスのスパイラルが形成されていた。

そこで、フィリピンにおいては、経営が健全で環境管理への意欲のある企業(意欲はあるが具体的な取組は行っていない企業)の環境管理レベルを高めることによって、環境管理レベルの高い企

業の数を増やし、これらの企業群が国の環境管理を引っ張っていくような発展モデルを提示した。環境管理レベルの高い企業には、社会的名声を高めるような政策(表彰制度等)によりさらに高い環境管理を誘導していく一方、環境管理レベルの低い企業には、経営改善・経営革新により生産性を高め、品質改善による競争力を回復させることを優先させて利益を出せるようにし、その利益による生産改善、環境対策投資に発展させていく事例を多く作り、その情報を提供することによって、環境管理レベルを向上させていこうというものである。

## 3. 日本モデル環境対策技術等国際展開事業への示唆

我が国では、中小企業の公害防止対策は、住民の苦情や地方公共団体からの勧告・命令を動機として、公害防止対策投資による生産コストアップを、製造施設の近代化や、既存の生産設備の改良や無駄の排除による生産性向上によって吸収していったと分析されている<sup>2</sup>。日本では公害の甚大な都市において、国に先駆けて地方公共団体の条例やその執行体制が整備され、公害裁判の報道や公害キャンペーンの展開、地方自治体によるモニタリング結果の公表等によって住民の意識も高まり、企業の公害対策を求める地元の外部圧力が存在した。

一方、開発途上国では、環境対策組織は国レベルから整備され、ようやく地方自治体の環境対策組織が整備された段階であり、環境の状況を把握するためのデータも限られ、地方公共団体による規制の執行や住民といった外部圧力が日本ほど高く働かない。そのような外部圧力を高めていくことも重要であるが、その顕在化にはかなりの時間が必要となる。

企業の環境対策には企業トップのコミットメントが不可欠であるが、生産性や品質改善といった経営課題と関連付けた環境対策の展開も、環境協力のパッケージ化に忘れてはならない視点の一つであると思う。

<sup>1</sup> EMPOWER プロジェクト (Environmental Management with Public and Private Sector Ownership Project) ともいう。

<sup>2</sup> 独立行政法人国際協力機構(株式会社エックス都市研究所委託)。日本の産業公害対策経験。2004。